

きぼうへのかけはし

基本理念 希望のある医療

手術実績について

平成22年度の診療科別手術件数及び麻酔種類別件数については、次のとおりです。

診療科	件数
内科 ※1	72
外科	541
整形外科	386
脳神経外科	49
皮膚科	41
泌尿器科	87
形成外科	594
眼科	350
耳鼻いんこう科	190
放射線科	14
麻酔科	2
合計 ※2	2,326

麻酔の種類	件数
全身麻酔	797
腰椎麻酔	354
仙骨麻酔	5
その他	1,170
合計	2,326



(雨の日の登校風景)

※1 透析シャント手術
※2 手術室利用分のみ

呼吸器外科について

医師：坪島顕司 (つぼしま けんじ)
(日本呼吸器外科学会専門医、日本外科学会認定医・専門医、
日本がん治療認定医機構認定医、肺がん CT 検診認定医)

1. 呼吸器外科のご紹介

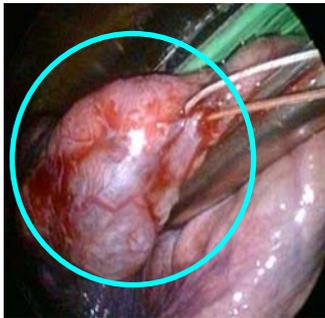
当科は呼吸器外科専門医の資格を持つ常勤医師2名の体制で平成22年4月に新たに発足しました。近隣に呼吸器外科を専門とする病院は少ないため、地域の中核病院としてご紹介いただく患者数や、入院患者数、手術件数ともに増加傾向にあります。今回は呼吸器外科専門医としての当科の取組みをご紹介します。

※詳しくは裏面をご覧ください。

「きぼうへのかけはし」に関するお問合せは、
地域医療連携室までお願いします。
連絡先 〒676-8585 兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号
TEL 079-442-3981 (内線5146)
FAX 079-443-1401
ホームページ <http://www.hospital-takasago.jp/>

2. 気胸患者さんへの取組み

気胸とは、20歳前後の背の高い男性やタバコをよく吸う60歳頃の方に多くみられる疾患です。主に肺の表面に**ブラ**と呼ばれる袋【写真1】ができ、破裂するために発症します。これを自然気胸といいます、それ以外にも女性特有の月経に関係したものなどがあります。



ブラが破裂すると肺から空気漏れがおり、肺がしぼんでしまいます。放置すると息が苦しくなったり、たまった空気で心臓が圧迫されて重篤な状態になりうるため治療が必要です。当院では、まずは胸に管を入れてたまった空気を抜く方針としています。それでも空気漏れが続いたり、何度も繰り返す方は手術を検討します。

【写真1】肺の表面にできた袋(ブラ)
(胸腔鏡でのぞいた、胸の中のようす)

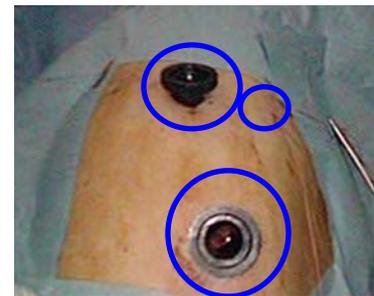
3. 手術について

胸腔鏡という 0.5~1cm の筒状のカメラを使う手術を基本としています。モニターを見ながらブラを自動縫合器という機械で切除します。この方法は既に日本中に広く普及していますが、多くの施設では3つの**ポート(プラスチックなどの筒)**を胸に留置して手術をおこなっています。1つのポートを留置するために**1~2cm の傷**をつける必要がありますが、気胸患者さんは特に若い方が多いため、あまり多くの傷をつけることは美容面で無視できない問題です。そのため当院では、より傷の目立たない手術を考え基本的に2つのポート【写真2】で手術をおこなっています。

これまで肺を持ち上げるために利用していたポートの1つを、肺に縫い付けた糸を特殊な装置で胸の外に取り出すことで代用する方法で、従来の方法と比較しても遜色のない結果が得られています。

閉創は抜糸のいらぬ溶ける糸や外科用のテープを使用しますので、術後も傷があまり目立ちません。【写真3】早い方では、術後2日目に退院することも可能です。

あたま側



おなか側

せなか側

【写真2】手術時のポート、針穴

あたま側

おなか側



せなか側

【写真3】手術後の傷のようす
(ほとんど目立たなくなります)

4. 再発を繰り返す方への対応

残念ながら、気胸手術をおこなっても、数~十数%の方が再発してしまうことが知られており、体質により何度も気胸を繰り返す方がいます。次々に多くのブラができる方の場合、全てを切除することは困難なため、当院では、肺を補強するシートやスプレーを使用し対応しています。また、ブラを比較的低温で焼灼し収縮させる方法も採用しています。月経に関連した気胸など特殊な症例の治療経験も豊富ですので、ぜひご相談下さい。

お知らせ

内科の外来診療の変更について

6月より、内科の外来診療担当医が変更となります。外来診療担当医表でご確認ください。